

SDGs未来都市等進捗評価シート

2021年度選定

熊本県菊池市

2023年9月

SDGs未来都市計画名

菊池市SDGs未来都市計画
～自然を生かし、人をつなぎ、自立発展し続けるまち菊池～

特に注力する先導的取組

「さあ、行こう！」菊池“Saiko！”プロジェクト
～きくちまるごと快適オフィス化からはじめる「菊池ファン」づくり～

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

菊池市SDGs未来都市計画～自然を生かし、人をつなぎ、自立発展し続けるまち菊池～

(2) 2030年のあるべき姿

2030年をターゲットに、本市の活力を取り戻し、再興を果たすためには、ヒト・モノ・カネの好循環を生み出す必要がある。そこで、

- ① 新たな発見やアイデアが生まれるよう、様々なヒトが域内外からつどい、皆で意見や知恵を出し合える土壌が整っており、
- ② 新たな価値の創出や地域の活性化へとつながるよう、例えば、市民と来訪者、観光と農業、里山と都市といったように、集った人々や本市ならではの里山資源など、様々なヒトやモノをつなぐことで相乗効果が生まれる仕組みがあり、さらに、
- ③ これらのつどい・つなげるというアクションが一過性のもではなく、将来に向けて持続していく、「里山資源を生かし、ヒトやモノがつながり、自立発展し続けるまち」の実現を目指す。

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	観光入込客数【8.9】	2021年3月 256.4 万人/年	2022年 272.8 万人/年	2030年 600 万人/年	5%
2	新規就農者数【9.4,9.b】	2020年3月 8 人	2022年 52 人（累計）	2030年 266 人（累計）	17%
3	新規創業者数【9.4,9.b】	2020年3月 6 人	2022年 30 人（累計）	2030年 109 人（累計）	23%
4	菊池市に住み続けたいと思う市民の割合【3.7,4.7】	2021年3月 69.2 %	2022年 データなし %	2030年 90 %	—
5	交通インフラに関する市民の満足度【11.7】	2021年3月 16.8 %	2022年 データなし %	2030年 70 %	—
6	市民一人あたりの温室効果ガスの排出量【7.1,7.a,15.1】	2017年3月 11.1 t-Co2/年	2022年 データなし t-Co2/年	2030年 6.66 t-Co2/年	—

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

指標No1の観光入込客数について、5類への移行など脱コロナの雰囲気の高まりもあり、ストーリー性を高めたプロモーション、本市ならではのコンテンツ造成等の取組により、観光入込客数は順調に回復しつつある。

指標No2の新規就農者の確保について、農業次世代人材投資資金や新規農業就業奨励金の交付をはじめ、県・JA等と連携したサポートチームによる支援を行い、新規就農者の確保につなげた。

指標No3の新規創業者数について、きくち起業塾や個別相談会を実施し、創業希望者のスキルアップを図った。

なお、指標No4（菊池市に住み続けたいと思う市民の割合）及びNo5（交通インフラに関する市民の満足度）については、次期総合計画策定時（令和6年度）に調査予定のため、令和4年度のデータはない。また、No.6（市民一人あたりの温室効果ガスの排出量）については、当該年度分の調査が数年後となるため、令和4年度のデータはない。（なお、平成30年度の実績値（※令和4年度に算定）は9.9t-CO2/年となっている。）

ステークホルダーとの連携については、市が連携協定を締結している企業・大学等と市内関係団体との交流会を初めて開催し、多様なステークホルダーの連携による地域活性化を図った。

行政体内部の執行体制としては、令和4年度より横断的なSDGsの推進等を行う部署「SDGs推進室」を新たに設置した。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
1	①SDGsの普及啓発	市民のSDGsの認知度	2020年9月 15.7 %	2021年 データなし %	2022年 データなし %		2023年 60 %	—
2	②観光資源や農産物等を活かした経済のエンジンづくり	観光入込客数	2021年3月 256.4 万人/年	2021年 242.6 万人/年	2022年 272.8 万人/年		2023年 325.7 万人/年	24%
3	③住民のQOL向上につながる取組	住民幸福度	2021年3月 72.5 %	2021年 データなし %	2022年 データなし %		2023年 80 %	—
4	④カーボンニュートラルの実現に向けた未来の里山づくり	市民一人あたりの温室効果ガスの排出量	2017年3月 11.1 t-Co2/年	2021年 データなし t-Co2/年	2022年 データなし t-Co2/年		2023年 8.88 t-Co2/年	—

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

新たな地域活性化の手法やビジネスチャンスの発掘、SDGsの推進等につなげることを目的として、市が連携協定を締結している企業・大学等と市内関係団体との交流会を初めて開催し、多様なステークホルダーの連携による地域活性化を図っている。また、SDGsの普及啓発について、熊本県のSDGs登録認証制度の周知等を通じて、企業等のSDGsの推進を図った。加えて、熊本連携中枢都市圏の新たな事業として、「熊本連携中枢都市圏SDGsパートナー事業」を開始した。今後は本事業を通じて、広域的なSDGsの普及啓発や自治体・企業との交流、シーズ・ニーズのマッチング等にも取り組む。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

市民のSDGsの認知度については、令和4年度のデータはないが、包括連携協定企業や市内関係団体と連携し、小中学生向けの講座やワークショップを計9回開催し、SDGsの普及啓発を図った。また、ESDの推進について、奈良教育大学のESDティーチャー認定プログラムを開催し、各学校から1名が受講し、ESDティーチャーの認定を受けた。そして、各学校のSDGsの取組を市民に発表する機会として、「みんなのSDGs発表会」を開催した。さらに、多文化共生の取組について、図書館で行っている在住外国人への「日本語教室」や、市民を対象とした「やさしいほんご活用講座」など、誰一人取り残されない多文化サービスの取組みが評価され、第1回熊本SDGsアワード「未来づくり部門」にて優秀賞を受賞した。

住民幸福度については、令和4年度のデータはないが、様々な地域や団体、組織、行政等が集い、知恵を出し合い、協働してつくりあげるかわまちづくりは、菊池高校生や大学生等の参画もあり、菊池川河川事務所により、河川環境整備の第二期工事が実施された。また、健康ポイントアプリを通じて、日々の健康づくりをポイントに換算し、見える化させて、市民主体の健康づくりにつながった。

市民一人あたりの温室効果ガスの排出量については、令和4年度のデータはないが、熊本連携中枢都市圏の関係自治体と連携し、脱炭素化に向けた協議等を行った。また、ごみの排出量削減について、広報紙やアプリ等によるごみ分別の周知や資源ごみ（有価物）回収団体奨励金制度、生ごみ処理器等の購入及びごみステーションの整備に対する補助制度の周知等を行った。世帯あたりのごみ排出量は、前年と比べて6kg/年削減することができた。

なお、指標のNo1（市民のSDGsの認知度）およびNo3（住民幸福度）については、次期総合計画策定時（令和6年度）に調査予定のため令和4年度のデータはない。また、No4（市民一人あたりの温室効果ガスの排出量）については、当該年度分の調査が数年後となるため、令和4年度のデータはない。（なお、平成30年度の実績値（※令和4年度に算定）は9.9t-Co2/年となっている。）

(4) 有識者からの取組に対する評価

・目標達成に向けた取り組み成果のデータがほとんどないため評価が困難である。他の自治体では報告されている指標のデータがないことについて説明が望まれる。次年度にも同様のことが予想され、代替指標を準備すべきと思われる。

2. 特に注力する先導的取組

(1) 取組名

「さあ、行こう！」菊池「Saiko！」プロジェクト ～さくちまるごと快適オフィス化からはじめる「菊池ファン」づくり～

(2) 取組の概要

テレワーカーを新規ターゲットとし、快適なオフィス環境と菊池ならではのコト消費を提供することで誘引を図り、継続的に菊池ファンとして定着させ、地域資源との相互作用による好循環を創出することで、経済の再興、市民・来訪者の最幸、里山の彩豊を果たすとともに、持続可能な魅力あふれる「Saiko！」のまちを実現する。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
【経済】 ①-1 菊池ファン(関係人口)の拡大	①菊池ファンクラブ 観光協会や市民有志と連携して「全国のさくちまるサミット」「オンライン菊池ファン交流会」などの事業を実施し、菊池ファンのネットワーク拡大を図った。 ②南北朝・菊池一族歴史街道プロジェクト 福岡県南の5自治体(久留米市、八女市、小郡市、うきは市、大刀洗町)と連携し、「南北朝・菊池一族歴史街道スタンプラリー」を実施した。約300名の参加があり、南北朝・菊池一族歴史ファンの獲得と協議会地域への誘客を進めた。	菊池ファンクラブ 会員数	2021年 2月 500人	2021年 2,004人	2022年 3,738人		2023年 6,000人	59%
【経済】 ①-2 里山を体験できるコト消費の提供	菊池の魅力発信事業の一環として、ターゲット層のニーズを踏まえた新しい視点で企画、造成した旅行商品を体験できるモニターツアーを5回実施した。電門ダムロンロン館では珈琲焙煎及びアウトドア体験を行い、水源交流館では火おこし＆羽釜米炊き体験を行った。モニターツアー参加者からは好評であったが、さらに観光コンテンツの発掘及び磨き上げにより、今後のターゲット層の旅行ニーズを踏まえた旅行商品を作成し誘客を推進する。 グリーンツーリズムに関しては、水源交流館において、農業体験やキャンプ、フットバス体験会を開催した。また、サイクリングマップを最新版に更新した。	観光入込人数	2021年 3月 256.4万人	2021年 242.6万人	2022年 272.8万人		2023年 325.7万人	24%
【経済】 ①-3 里山テレワークの推進	官民連携によるテレワーク等の取組の推進を図るため、民間企業2社と連携協定を締結した。また、IT企業にアンケート調査を実施し、テレワークの実態について分析を行った。 そして、山鹿市とくまもとDMCと協議し、県北広域での連携事業の検討を進めた。							
【社会】 ②-1 健康促進型のコト消費の提供	菊芋について、熊本県立大学と連携し、菊池市産菊芋の季節間のイヌリン含有量変動を調査した。ヤーコンについて、東海大学と連携し、年間2回の講習会を実施した。菊芋・ヤーコンともに、菊池市内圃場において生育状況を確認し、生産者が有識者から助言を受けることにより生産技術向上を図った。また、生産者だけでなく加工業者にも参加してもらい相互交流することにより食材としての普及促進を図った。 健康プログラムについて、6月に第三者認証制度である「ヘルスツーリズム認証制度」を取得した。日常から離れて自然にふれながら癒しを感じ、心身の健康増進を図るプログラム「菊池渓谷散策ツアー」を実施し23名の参加があった。	テレワーカーの満足度	2021年 3月 未測定 %	2021年 データ なし %	2022年 データ なし %		2023年 80 %	-
【社会】 ②-3 まちなかを周遊できる交通政策の推進	電動キックボードや電動アシスト自転車等、eモビリティの情報収集を行い、市内事業所へ紹介するなど支援を行った。 また、市内事業所が電動アシスト自転車のシェアサイクルをスタートしたことに伴い、乗降スポット拡大等の協議および検討を開始した。							
【社会】 ②-2 地域一体で築き上げる子どもたちの成長	5月と10月の2回にわたり、(株)九州野菜育苗センターから花苗の提供を受け、市内のボランティア団体、及び中学生の手により公共施設や公道沿いの植栽が行われた。	子どもたちの環境教育に対する満足度	2021年 3月 未測定 %	2021年 データ なし %	2022年 データ なし %		2023年 80 %	-

2. 特に注力する先導的取組

取組名	取組内容	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
【環境】 ③-1 里山資源の“彩興”による安心・安全・明るい景観づくり	西部電気工業(株)との協定に基づき、水源涵養や地球温暖化防止などに寄与する森林保全を目的に、植樹や下刈等を行った。12行政区へ71本の桜苗木を交付し、市内全域に桜の里を広げることができた。 また、環境保全型農業直接支払交付金の活用により、244haの農地で有機農業等の環境に配慮した農業生産活動が行われた。菊池基準の要件となっているエコファーマー制度について、国の制度改正に伴い要綱の改正を行う必要がある。 そして、農林業と生活環境に被害を及ぼす有害鳥獣について、捕獲隊や生産者等と連携した被害防止対策を行い、有害鳥獣対策を通じた、里山の景観保全に取り組んだ。	市民一人あたりの温室効果ガスの排出量	2017年 3月 11.1 t-CO ₂ /年	2021年 データ なし t-CO ₂ /年	2022年 データ なし t-CO ₂ /年		2023年 8.88 t-CO ₂ /年	-
【環境】 ③-2 里山共存型カーボンニュートラルの実現に向けた取組の推進	企業の本質バイオマス発電施設の備品購入に伴う機械購入の国庫補助を行った。また、温暖化対策として、住宅用太陽光発電設備設置費補助金交付要綱を制定(既存要綱の改正)した。 さらに、eモビリティについて、電動キックボードや電動アシスト自転車等、eモビリティの情報収集を行い、市内事業所へ紹介するなど支援を行った。 そして、広域的なカーボンニュートラルの推進について、熊本連携中枢都市圏として地域内の脱炭素化に向けた連携を図るべく協議を進めた。							

(4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

①-1 菊池ファン(関係人口)の拡大については、観光協会や市民有志と連携して「全国のまぐちさんサミット」「オンライン菊池ファン交流会」などの事業を実施したほか、福岡県南の5つの自治体と連携し、「南北朝・菊池一族歴史街道スタンプラリー」を実施した。菊池ファンクラブ会員数は順調に増加しており、菊池ファン(関係人口)の拡大につながった。

①-3 里山テレワークの推進については、官民連携によるテレワーク等の取組の推進を図るため、民間企業2社と連携協定を締結した。また、テレワークの需要を調査するため、福岡・関西の企業を対象にテレワーク等のニーズ調査等を行った。そして、自然にふれながら癒しを感じ、心身の健康増進を図るプログラムが令和4年6月に第三者認証制度である「ヘルスツーリズム認証制度」を取得し、計23名の参加があった。

③-1 里山資源の“彩興”による安心・安全・明るい景観づくりについては、企業や地域住民等との協働による植樹活動や環境に配慮した農産物の生産基準(菊池基準)の普及推進等を通じて、豊かな自然環境・景観の保全等を図った。

なお、社会面に係る指標(テレワークの満足度及び子どもたちの環境教育に対する満足度)について、毎年度の調査は実施していないため、令和4年度のデータはない。また、環境面に係る指標(市民一人あたりの温室効果ガスの排出量)については、当該年度分の調査が数年後となるため、令和4年度のデータはない。(なお、平成30年度の実績値(※令和4年度に算定)は9.9t-CO₂/年となっている。)

2. 特に注力する先導的取組（三側面をつなぐ統合的取組）

(1) 三側面をつなぐ統合的取組名

「菊池ファン」獲得に向けたまきまるごと快適オフィス化事業

(2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

菊池「Saiko！」プロジェクトの核となるまちづくりコンソーシアムを中心に、空き家・空き店舗等の未利用資源を活用したオフィスを整備し、テレワークに健康プログラムや里山体験等を組み合わせた新たな滞在型ワークスペースを提供する。里山資源をまるごと活用した快適オフィスによる菊池ファン獲得で関係人口拡大につなげる。

- 菊池「Saiko！」プロジェクトの持続的エンジンとなる「まちづくりコンソーシアム」の設立
- 空き家・空き店舗等の未利用資源を活用したオフィスの整備
- テレワーク×健康プログラム×アウトドア×温泉×食（グルメ）といった新しい滞在型ワークスペースの構築
- e-モビリティの導入促進

(3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇄環境

経済⇄社会

社会⇄環境

現時点において相乗効果やトレードオフの緩和等の成果にはつながっていない。引き続き、統合的取組を推進することで、相乗効果の創出につなげたい。

現時点において相乗効果やトレードオフの緩和等の成果にはつながっていない。引き続き、統合的取組を推進することで、相乗効果の創出につなげたい。

現時点において相乗効果やトレードオフの緩和等の成果にはつながっていない。引き続き、統合的取組を推進することで、相乗効果の創出につなげたい。

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
1	【経済→環境】 企業やNPO等との協働による植樹本数	2021年3月 16,750 本	2021年 18,883 本 (累計)	2022年 18,954 本 (累計)		2023年 18,550 本 (累計)	122%
2	【環境→経済】 e-モビリティを活用した取組の創出数	2021年3月 未測定 件	2021年 データなし 件 (累計)	2022年 データなし 件 (累計)		2023年 5 件 (累計)	-
3	【経済→社会】 空き家バンクを活用した市外からの移住者数	2020年3月 142 人	2021年 186 人 (累計)	2022年 218 人 (累計)		2023年 200 人 (累計)	131%
4	【社会→経済】 健康プログラム参加者の宿泊日数	2021年3月 未測定 泊/年	2021年 データなし 泊/年	2022年 データなし 泊/年		2023年 4,160 泊/年	-
5	【社会→環境】 来訪者による環境保全活動の参加者数	2021年3月 未測定 人	2021年 データなし 人 (累計)	2022年 データなし 人 (累計)		2023年 1,000 人 (累計)	-
6	【環境→社会】 住民幸福度	2021年3月 72.5 %	2021年 データなし %	2022年 データなし %		2023年 80 %	-

(5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

新たな地域活性化の手法やビジネスチャンスの発掘、SDGsの推進等につなげることを目的として、市が連携協定を締結している企業・大学等と市内関係団体との交流会を初めて開催し、多様なステークホルダーの連携による地域活性化を図っている。また、テレワーク等の推進について、官民連携によるテレワーク等の取組の推進を図るため、民間企業2社と連携協定を締結した。そして、SDGsの普及啓発について、熊本県のSDGs登録認証制度の周知等を通じて、企業等のSDGsの推進を図った。加えて、熊本連携中枢都市圏の新たな事業として、「熊本連携中枢都市圏SDGsパートナー事業」を開始した。今後は本事業を通じて、広域的なSDGsの普及啓発や自治体・企業との交流、シーズ・ニーズのマッチング等にも取り組む。

(6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 菊池「Saiko！」プロジェクトの持続的エンジンとなる「まちづくりコンソーシアム」の設立について、コンソーシアムは設置していないが、上段で記載のとおり、連携企業・大学等と市内関係団体との交流会を通じた、多様なステークホルダーの連携や民間企業との連携によるテレワーク等の取組を推進している。
 - 空き家・空き店舗等の未利用資源を活用したオフィスの整備について、令和4年度はテレワーク施設等の整備は進んでいないが、引き続き、民間企業等と連携し、市内のテレワーク環境の整備を進める。
 - テレワーク×健康プログラム×アウトドア×温泉×食（グルメ）といった新しい滞在型ワークスペースの構築については、官民連携によるテレワーク等の取組の推進を図るため、民間企業2社と連携協定を締結した。また、自然にふれながら癒しを感じ、心身の健康増進を図るプログラムが令和4年6月に第三者認証制度である「ヘルスツーリズム認証制度」を取得し、計23名の参加があった。
 - e-モビリティの導入促進について、電動キックボードや電動アシスト自転車等、eモビリティの情報収集を行い、市内事業所へ紹介するなど支援を行った。
- なお、No2（e-モビリティを活用した取組の創出数）、No4（健康プログラム参加者の宿泊日数）及びNo5（来訪者による環境保全活動の参加者数）について、令和4年度末時点で関連事業が開始できていないため、令和4年度のデータはない。また、No6（住民幸福度）については、次期総合計画策定時（令和6年度）に調査予定のため令和4年度のデータはない。

2. 特に注力する先導的取組（三側面をつなぐ統合的取組）

（7）有識者からの取組に対する評価

- ・データがある指標については、大きな前進が評価できる。テーマそのものが意欲的なものであり、さらなる推進を期待する。
- ・全体計画と同様、データなしの指標については説明が望まれ、必要に応じ代替指標の準備の検討が望まれる。